

ウマノズクサ

Aristolochia debilis Sieb. et Zucc.

ウマノズクサ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

生育地が広い範囲に点在しているが、個体数が少ない。全国的分布域からも貴重である。(現況:RO)

形態

植物全体に一種の臭気がある。茎は細く、よく分枝する。上部はつるになって他の植物に巻きつく。葉は三角状狭卵形、ヤマノイモ状で青味があり、基部は心形、基部両側は耳状で先は円形、葉柄がある。葉腋に長いラッパ形の緑紫色の花を1個つける。

国内分布

本州(関東以西)～九州。

県内分布

南加賀区、加賀中央区、口能登区、中能登区、内浦区、外浦区。

生態など

長さ1～5mに伸びる多年生つる草である。開花期は7～8月。果実は蒴果で球形をしている。

生育環境

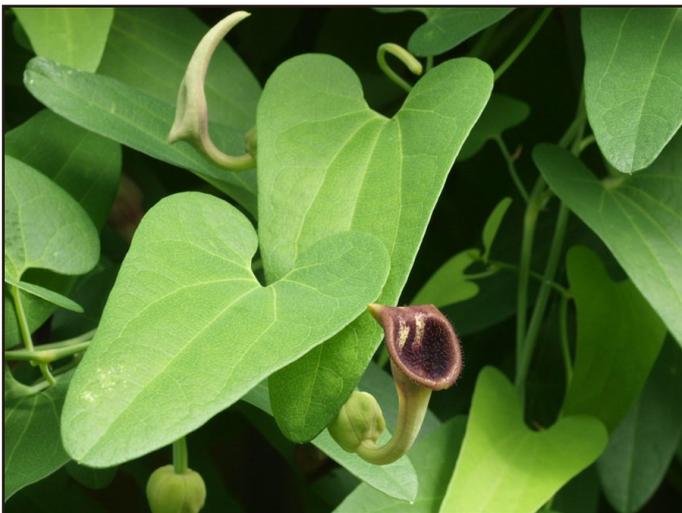
土手の草地ややぶの付近にやままれに生える。

危険要因

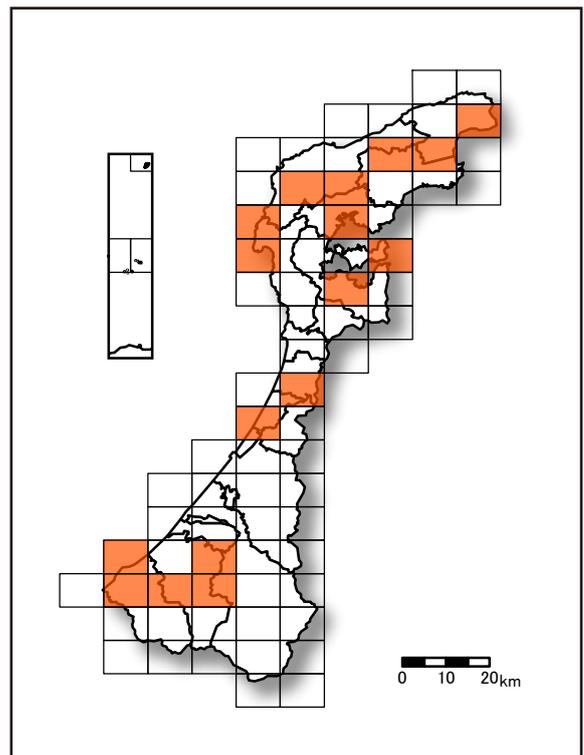
河川開発、土地造成、農薬汚染、踏みつけ、道路工事。

特記事項

ジャコウアゲハの食草である。



本多郁夫・2009年8月7日・加賀中央



県内の分布